

# 中国における自由市場の発展と現況

石 原 潤

## 1. はじめに

1978年に始まる中国の改革開放政策の一貫として、自由市場（集市）の復活と新設が進められて来た。しかし、その実態については、必ずしも十分に明らかにされているとは言い難い。筆者は既に、「全国集市名冊」<sup>1)</sup>や「中国集市大観」<sup>2)</sup>などの資料を統計的に分析し、これら自由市場の実態に迫ろうとしたが、いずれの資料も全ての集市をカバーしておらず、しかも収録されている集市のサンプルとしての代表性にも問題があった。したがって本研究では、集計データではあるが、全集市に関する統計を出来るだけ集めることを目指し、そのようにして集まったデータを分析し、自由市場の現在までの発展の趨勢と、現在における状況とを明らかにすることを、目的とした。

具体的には、まず、1980-90年の全中国を対象にした統計書、及び比較的近年の各省・自治区・特別市別の年鑑類を、可能な限りで収集・閲覧し、全国及び各地域別かつ都市・農村別に、集市の数・総売上高・商品別売上高及び小売販売総額を求める。つぎに、これらの原データより、集市数・総売上高の増減指数、同じく集市数・総売上高の都市・農村間の構成比、売上高の商品別構成比、1集市当り総売上高、および小売販売総額に対する集市総売上高の割合を計算し、それらの継年的比較を試み、集市の発展の趨勢を明らかにする。さらに、比較的資料が整った1988年について、これらの変数の地域（省・自治区・特別市）別数値を比較検討し、地域差を伴ったその現況を明らかにし、あわせて、それらの地域差と都市化及び経済発展の程度との相関を検討する。

## 2. 自由市場の発展

第1表は、集市数の継年変化を見たものである。まず、総数では、改革開放政策の採られた直後の1980年の4万余から、毎年一貫して増加し、10年後の1990年には7万2千余と、約78%増加した。

このうち農村（郷村）部では、1980年の3万7千余から、ほぼ毎年増加を続け、1990年には5万9千余と、約57%増加した。G. W. Skinner は、社会主義革命直前の1948年の中国におい

第1表 集市数の変遷

年次	全 域			都 市			農 村		
	実数	指数	構成比	実数	指数	構成比	実数	指数	構成比
1980	40,809	100	100.0	2,919	100	7.2	37,890	100	92.8
1982	44,775	110	100.0	3,591	123	8.0	41,184	109	92.0
1983	48,003	113	100.0	4,488	154	9.3	43,515	115	90.7
1984	56,500	138	100.0	6,144	210	10.9	50,356	133	89.1
1985	61,337	150	100.0	8,013	275	13.1	53,224	141	86.9
1986	67,610	166	100.0	9,701	332	14.3	57,909	153	85.7
1987	69,683	171	100.0	10,908	374	15.7	58,775	155	84.3
1988	71,359	175	100.0	12,181	417	17.1	59,178	156	82.9
1989	72,130	177	100.0	13,111	449	18.2	59,019	156	81.8
1990	72,579	178	100.0	13,106	449	18.1	59,473	157	81.9

て、伝統的市を核とした市場中心地が5万8千余存在したと推計している<sup>3)</sup>が、1990年の農村集市数は、ほぼこれに見合う数である。それもあってか、農村の集市数は、1986年に5万8千に近づいて以降は増加ペースが急激に落ちている。

これに対して都市（城市）部では、1980年にはわずか3千弱であったものが、1990年には1万3千余と、約4.5倍に急激に増加している。これは都市部において急激な人口増加が続いていること、および後述のように、集市が特に生鮮食料品の市場として都市住民に不可欠の存在になっていることによるものと思われる。ただし、都市部においても、1989年に対して1990年は、ごく僅かであるが集市数が減少している。これが新たな傾向を示すものであるかどうかは、いましばらく動向を見守る必要がある。

以上の結果として、集市の都市・農村別の構成比は、1980年の都市部7.2%、農村部92.8%から、1990年には都市部18.1%、農村部81.9%へと、大きく変化した。

第2表 集市売上高の変遷 (実数の単位は億円)

年次	全 域			都 市			農 村		
	実数	指数	構成比	実数	指数	構成比	実数	指数	構成比
1980	235.4	100	100.0	23.7	100	10.1	211.7	100	89.9
1982	333.1	142	100.0	45.2	191	13.6	287.9	136	86.4
1983	379.3	161	100.0	51.4	217	13.6	327.9	155	86.4
1984	456.9	194	100.0	75.2	317	16.5	381.7	180	83.5
1985	632.3	269	100.0	120.7	509	19.1	511.6	242	80.9
1986	906.5	385	100.0	244.4	1031	27.0	662.1	313	73.0
1987	1,157.0	492	100.0	347.1	1465	29.9	810.8	383	70.1
1988	1,621.3	689	100.0	545.3	2301	33.6	1,076.0	508	66.4
1989	1,973.6	838	100.0	723.6	3053	36.7	1,250.0	591	63.3
1990	2,168.2	921	100.0	837.8	3535	38.6	1,330.4	628	61.4

次に、第2表は、集市の総売上高の継年変化を見たものである。全体では、1980年の235億元から、毎年着実に増えて、1990年には2,168億元と、9倍強に増大した。これは、物価上昇分を差し引いても著しい増加であったと言えよう。

そのうち農村部でも、毎年着実な増加が見られ、10年間に6倍強に増大した。総売上高に関する限り、1986年以降の停滞傾向は認められず、なお急激な増大傾向が続いている。

一方、都市部では、総売上高がもっと急激に上昇し、10年間に35倍強に増大した。また、1989年と90年の間にも集市数で見られたような減少は認められず、引き続き増大過程にあると言える。

以上の結果として、総売上高の都市・農村別の構成比は、1980年の都市部10.1%、農村部89.9%から、1990年には都市部38.6%、農村部61.4%へと、大きく変化した。都市部の占める割合は、集市数の場合に比べ、1980年においてもより高かったが、1990年には、一層高くなったと言える。

第3表 1集市当り売上高の変遷 (実数の単位は万元)

年次	全 域		都 市		農 村	
	実数	指数	実数	指数	実数	指数
1980	57.7	100	81.2	100	55.9	100
1982	74.4	129	125.9	155	69.9	125
1983	79.0	137	114.5	141	75.4	135
1984	80.9	139	122.4	151	75.8	136
1985	103.1	179	150.6	185	95.9	172
1986	134.1	232	251.9	310	114.3	205
1987	166.0	288	318.2	392	137.9	247
1988	227.2	394	447.7	551	181.8	325
1989	273.6	474	551.9	680	211.8	379
1990	298.7	518	639.2	787	223.7	400

そこで第3表は、1集市当りの売上高の継年変化を見たものである。全体では、1980年の57.7万元から、毎年着実に増加し、1990年には298.7万元へと5倍強に増大した。

そのうち農村部でも、毎年着実な増加が見られ、1980年の55.9万元から、1990年の223.7万元へと、10年間に約4倍に増大した。一方、都市部でも、ほぼ毎年かなり急激な増加が見られ、1980年の81.2万元から、1990年の639.2万元へと、10年間で8倍強に増大した。このように、農村の集市よりも、都市の集市の方が1集市当り売上高が常に大きく、しかもその格差は、1980年の1.45倍から、1990年の2.86倍へと、拡大傾向にある。

次に、第4表は、小売販売総額<sup>4)</sup>に対する集市総売上高の割合の継年変化を見たものである。どちらの金額も年々急激に増大しているが、前者よりも後者の伸び率の方が高く、したがって、その割合は年々上昇し、1980年の11.0%から1990年には26.0%まで高まった。これは、国营商店など社会主義的流通機構に対して、自由市場のシェアが拡大しつつあることを示しており、

第4表 小売販売総額に対する集市売上高の割合の変遷

年次	A 集市売上高 (億円)	B 小売販売総額 (億円)	Bに対する Aの割合 (%)
1980	235.4	2,140.0	11.0
1982	333.1	2,570.0	13.0
1983	379.3	2,849.4	13.3
1984	456.9	3,376.4	13.5
1985	632.3	4,305.0	14.7
1986	906.5	4,950.0	18.3
1987	1,157.0	5,820.0	19.9
1988	1,621.3	7,440.0	24.4
1989	1,973.6	8,101.4	24.4
1990	2,168.2	8,300.1	26.0

第5表-1 商品種類別集市売上高の変遷-1

年次	穀物・食用油類		肉・卵類		水産物		蔬菜類		果物類	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1980	34.4	14.6	42.1	17.9	9.3	4.0	21.5	9.1	7.5	3.2
1982	39.4	12.2	57.6	17.8	14.8	4.6	27.2	8.4	10.3	3.2
1983	43.4	11.4	72.9	19.2	18.8	5.0	33.1	8.7	13.3	3.5
1984	45.6	10.0	91.8	20.1	24.1	5.3	38.3	8.4	18.6	4.1
1985	49.6	7.8	140.1	22.2	33.2	5.3	48.8	7.7	25.5	4.0
1986	71.2	7.9	246.8	27.2	64.4	7.1	96.9	10.7	59.3	6.5
1987	84.7	7.3	320.3	27.7	85.4	7.4	131.1	11.3	83.1	7.2
1988	108.1	6.7	460.0	28.4	123.0	7.6	193.0	11.9	122.9	7.6
1989	142.7	7.6	570.6	30.5	158.0	8.4	238.2	12.7	161.0	8.6
1990	146.8	6.8	618.8	28.5	182.4	8.4	264.2	12.2	183.5	8.5

注：実数の単位は億円。

第5表-2 商品種類別集市売上高の変遷-2

年次	農業生産資材		家畜		その他		合計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1980	7.1	3.0	26.5	11.3	87.0	37.0	235.4	100.0
1982	10.5	3.2	45.4	14.1	117.9	36.5	333.1	100.0
1983	11.7	3.1	41.6	11.0	144.5	38.1	379.3	100.0
1984	13.1	2.9	35.6	7.8	189.8	41.5	456.9	100.0
1985	13.9	2.2	32.6	5.2	292.6	46.3	632.3	100.0
1986	15.2	1.7	31.1	3.4	321.6	35.5	906.5	100.0
1987	15.8	1.4	32.6	2.8	404.0	34.9	1,157.0	100.0
1988	18.3	1.1	38.2	2.4	557.8	34.4	1,621.3	100.0
1989	22.2	1.2	38.9	2.1	642.0	28.9	1,973.6	100.0
1990	23.0	1.1	38.3	1.8	711.2	32.8	2,168.2	100.0

注：実数の単位は億円。

前稿でも見たように、そうした現象は、とりわけ生鮮食料品の分野において顕著であるようである。

最後に、第5表は、集市における商品種類別の売上高の継年変化を見たものである。統計上数値が集計されているものは、第1次産業生産物（中国における分類では、農産物および農副産品に当たる）および農業生産資材である。それらの合計は、1980年には63.0%、1990年には67.2%であり、売上高の約3分の2を占める。しかも農業生産資材の割合は極く僅かであり、そのほとんどは第1次産業生産物である。これに対して、残余の数字は、主に工業生産物が占めるものと思われ、その割合は1985年には一時46.3%まで高まったものの、その後は再び低下している。したがって、自由市場は主として第1次産業生産物が販売される場であると言えよう。

数値が集計されている商品種類について、1980年と1990年の数字を比較してみると、肉・卵類は17.9%から28.5%へと、水産物は4.0%から8.4%へと、蔬菜類は9.1%から12.2%へと、また果実類は3.2%から8.5%へと、それぞれ割合を高めている。これらに対して、穀物・食用油類は14.6%から6.5%へと、家畜は11.3%から1.8%へと、また農業生産資材は3.0%から1.1%へと、それぞれ割合を低めている。以上のことから、自由市場は、生鮮食料品市場としての性格を年々強めていると言えよう。穀物や家畜・農業用資材などは、別の流通ルートに依存する傾向にあるものと推測される。

### 3. 自由市場の地域差

前章では全国の数値をもとに、自由市場の継年的変化を見たわけであるが、本章では1988年の数値をもとに、自由市場の地域差を論じたい。

第6表は、地域別の集市数とその都市部・農村部別の構成比を見たものである。集市数は、基本的に人口数に比例していると考えられるが、山東省のように伝統的に集市が多数分布してきた地域では、人口数のシェア以上に集市が存在している。なお、都市部立地の集市の割合は、当然のことながら、黒竜江（44.7%）、天津（44.0%）、湖北（40.1%）、遼寧（39.2%）、吉林（33.6%）、上海（32.6%）など、第11表に見るように都市人口率の高い地域で高く、雲南（4.4%）、広西（6.9%）、山東（7.9%）、浙江（8.7%）、海南（8.8%）、四川（9.6%）など都市人口率の低い地域で低い。

第7表は、地域別の集市総売上高とその都市部・農村部別の構成比を見たものである。総売上高は、基本的に人口数に比例していると考えられるが、やはり山東省のように伝統的に集市が多数分布してきた地域では、人口数のシェア以上に総売上高が大きい。また、前述のように、一般に都市部の集市は売上規模が大きいので、都市人口率の高い地域では、人口の割合以上に総売上高が大きい。なお都市部での総売上高の割合は、当然のことながら、北京（77.6%）、

第6表 地域別集市数 (1988)

省・自治区	全域		都市		農村	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1.北京	730					
2.天津	257	100.0	114	44.0	143	56.0
3.河北	3,010	100.0	539	17.9	2,471	82.1
4.山西	1,628	100.0				
5.内蒙古	1,071	100.0				
6.遼寧	2,402	100.0	942	39.2	1,460	60.8
7.吉林	1,466	100.0	493	33.6	973	66.4
8.黒竜江	1,566	100.0	700	44.7	866	55.3
9.上海	396	100.0	129	32.6	267	67.4
10.江蘇	4,769	100.0	587	12.3	4,182	87.7
11.浙江	3,532	100.0	317	8.7	3,315	91.3
12.安徽	4,093	100.0	644	15.7	3,449	84.3
13.福建	1,596	100.0	247	15.5	1,349	84.5
14.江西	2,440	100.0				
15.山東	6,145	100.0	484	7.9	5,661	92.1
16.河南	4,432	100.0	470	10.6	3,962	89.4
17.湖北	4,644	100.0	1,864	40.1	2,780	59.9
18.湖南	3,798	100.0	447	11.8	3,351	88.2
19.広東	3,128	100.0	555	17.7	2,573	82.3
20.広西	2,199	100.0	151	6.9	2,048	93.1
21.海南	512	100.0	45	8.8	467	91.2
22.四川	7,045	100.0	677	9.6	6,368	90.4
23.貴州	2,468	100.0	161	6.5	2,307	93.5
24.雲南	2,755	100.0	121	4.4	2,654	95.6
25.西藏						
26.陝西	2,087	100.0	392	18.8	1,695	81.2
27.甘肅	1,425	100.0	393	27.6	1,032	72.4
28.青海	239	100.0	48	20.1	191	79.9
29.寧夏						
30.新疆	996	100.0	279	28.0	717	82.0
全国	71,359	100.0	12,181	17.1	59,178	82.9

注：10.江蘇省は1989年の数値。

第7表 地域別集市売上高(1988年)

省・自治区	全 域		都 市		農 村	
	実数(万元)	構成比	実数(万元)	構成比	実数(万元)	構成比
1.北京	141,320	100.0	109,604	77.6	31,716	22.4
2.天津	86,690	100.0	29,690	34.2	57,000	65.8
3.河北	758,200	100.0	243,200	32.1	515,000	67.9
4.山西	256,694	100.0	82,967	32.3	173,727	67.7
5.内蒙古	113,000	100.0	58,000	51.3	55,000	48.7
6.遼寧	629,300	100.0	307,601	48.9	321,699	51.1
7.吉林	325,404	100.0	190,710	58.6	134,694	41.4
8.黒竜江	383,335	100.0	236,595	61.7	146,740	38.3
9.上海	160,925	100.0	108,013	67.1	52,912	32.9
10.江蘇	1,221,552	100.0	370,208	30.3	851,344	69.7
11.浙江	1,198,410	100.0	277,823	23.2	920,587	76.8
12.安徽	830,816	100.0	282,222	34.0	548,594	66.0
13.福建	554,316	100.0	145,801	26.3	408,515	73.7
14.江西	477,410	100.0	139,990	29.3	337,420	70.7
15.山東	1,131,838	100.0	276,194	24.4	855,644	75.6
16.河南	1,115,092	100.0	299,659	26.9	815,433	73.1
17.湖北	833,822	100.0				
18.湖南	812,500	100.0	235,300	29.0	577,200	71.0
19.広東	1,629,909	100.0	541,748	33.2	1,088,161	66.8
20.広西	646,820	100.0	98,877	15.3	547,943	84.7
21.海南	124,413	100.0	18,639	15.0	105,774	85.0
22.四川	1,268,095	100.0	318,216	25.1	949,879	74.9
23.貴州	334,562	100.0	98,297	29.4	236,265	70.6
24.雲南	382,249	100.0				
25.西藏						
26.陝西	318,314	100.0	107,405	33.7	210,909	66.3
27.甘肅	186,435	100.0	97,170	52.1	89,265	47.9
28.青海	39,004	100.0	24,696	63.3	14,308	36.7
29.寧夏						
30.新疆	131,315	100.0	56,907	43.3	74,408	56.7
全国	16,213,000	100.0	5,453,000	33.6	10,760,000	66.4

注：10.江蘇省は1989年の数値。

上海 (67.1%), 青海 (63.3%), 黒竜江 (61.7%), 吉林 (58.6%), 甘肅 (52.1%) など, 都市人口率の高い地域で高く, 海南 (15.0%), 広西 (15.3%), 浙江 (23.2%), 山東 (24.4%), 福建 (26.3%), 河南 (26.9%) など都市人口率の低い地域で低い。ただし, 都市部の集市の方が売上規模が大きいので, いずれの地域においても, 都市部立地の集市数の割合より, 都市部での総売上高の割合の方が, より高い数値を示す。

第8表は, 1集市当りの総売上高を地域別に見たものである。まず, 全体の集市についてみると, 広東 (521.1万元, 以下同じ), 上海 (406.4), 福建 (347.3), 天津 (337.3), 浙江 (330.0) など, 第11表に見るごとく, 一人当たり所得の高い, 経済発展の進んだ地域でその値が高く, 甘肅 (130.8), 新疆 (131.8), 雲南 (137.7), 陝西 (152.5), 山西 (157.7) など, 一人当たり所得の低い, 経済発展の遅れた地域でその値が低い。同様なことは, 農村部の集市についても言えそうであり, 広東 (422.9), 天津 (398.6), 福建 (302.8), 浙江 (277.7) など, 一人当たり所得の高い, 経済発展の進んだ地域でその値が高く, 青海 (74.9), 甘肅 (86.5), 新疆 (103.8), 陝西 (124.4) など, 一人当たり所得の低い, 経済発展の遅れた地域でその値が低い。なお, 都市部の集市については, 大局的には同様なことが言えるが, 例外的な場合が散見される。

第9表は, 小売販売総額に対する集市総売上高の割合の地域差を見たものである。一般にその値は, 上海 (5.1%), 北京 (6.0%), 天津 (6.7%), 黒竜江 (13.0%) など, 都市人口率の高い地域で低く, 広西 (35.6%), 江西 (34.1%), 海南 (33.2%), 浙江 (31.8%) など, 都市人口率の低い地域で高い。これは, 都市部においては, 集市の売上高も大きいのであるが, 常設店舗など集市以外の小売施設がそれ以上に発達しているためであろう。なお, この値を規定するものとしては, 都市人口率以外にも, 地方毎の集市の伝統の強さの違いがあるように思われる。すなわちこの値は, 華中や華南など伝統的に集市の活発な地域において高く, 東北や西北などそれが不活発な地域で低い傾向が認められる。

最後に, 第10表は, 集市の商品種類別の売上高とその構成比の地域差を見たものである。各商品別に顕著な傾向のみを指摘すると, 以下のごとくである。

穀物・食用油の構成比は, 青海 (1.2%), 天津 (3.7%), 黒竜江 (4.2%) など, 都市人口率の高い地域で低いように見える。肉・卵類も, 天津 (1.7%), 北京 (12.9%) など, やはり都市人口率の高い地域で低い。これは, これらの商品が, 都市部では別の流通ルート (おそらく常設店舗) に主として依存するためであると思われる。

水産物の構成比は, 浙江 (16.7%), 福建 (14.2%), 江蘇 (14.1%), 広東 (11.6%), 海南 (10.6%) など, 華南・華中の沿海部で高く, 青海 (1.2%), 山西 (1.3%), 陝西 (1.8%), 甘肅 (1.9%), 新疆 (2.4%) など, 内陸の乾燥地域で低い。これは, 当該地域の自然条件によるものであり, 当然とも言えよう。



第8表 1 集市当り売上高の地域差 (1988年)

省・自治区	全域	都市	農村
1.北京	193.6		
2.天津	337.3	260.4	398.6
3.河北	251.9	451.2	208.4
4.山西	157.7		
5.内蒙古	105.5		
6.遼寧	262.0	326.5	220.3
7.吉林	222.0	386.8	138.4
8.黒竜江	244.8	338.0	169.4
9.上海	406.4	837.3	198.2
10.江蘇	251.1	630.4	203.5
11.浙江	330.0	876.4	277.7
12.安徽	203.0	438.2	159.1
13.福建	347.3	590.3	302.8
14.江西	195.7		
15.山東	184.2	570.6	151.1
16.河南	251.6	637.6	205.8
17.湖北	179.5		
18.湖南	213.9	526.4	172.2
19.広東	521.1	976.1	422.9
20.広西	294.1	654.8	267.6
21.海南	243.0	414.2	226.5
22.四川	180.0	470.0	149.2
23.貴州	135.6	610.5	102.4
24.雲南	137.7		
25.西藏			
26.陝西	152.5	274.0	124.4
27.甘肅	130.8	247.3	86.5
28.青海	163.2	514.5	74.9
29.寧夏			
30.新疆	131.8	204.0	103.8
全国	227.2	447.7	181.8

注：10.江蘇省は1989年の数値。  
単位は万元。

第9表 小売販売総額に対する集市売上高の割合の地域差 (1988年)

省・自治区	A集市売上高 (万元)	B小売総販売額 (万元)	Bに対する Aの割合 (%)
1.北京	141,320	2,343,000	6.0
2.天津	86,690	1,299,000	6.7
3.河北	758,200	3,551,000	21.4
4.山西	256,694	1,632,000	15.7
5.内蒙古	113,000	1,305,000	8.7
6.遼寧	629,300	4,027,000	15.6
7.吉林	325,404	2,020,000	16.1
8.黒竜江	383,335	2,941,000	13.0
9.上海	160,925	3,135,000	5.1
10.江蘇	1,221,552	5,486,000	22.3
11.浙江	1,198,410	3,770,000	31.8
12.安徽	830,816	2,520,000	33.0
13.福建	554,316	1,945,000	28.5
14.江西	477,410	1,400,000	34.1
15.山東	1,131,838	4,910,000	23.1
16.河南	1,115,092	3,516,000	31.7
17.湖北	833,822	3,375,000	24.7
18.湖南	812,500	3,162,000	25.7
19.広東	1,629,909	6,339,000	25.7
20.広西	646,820	1,817,000	35.6
21.海南	124,413	375,000	33.2
22.四川	1,268,095	4,775,000	26.6
23.貴州	334,562	925,000	36.2
24.雲南	382,249	1,500,000	25.5
25.西藏		114,000	
26.陝西	318,314	1,590,000	20.0
27.甘肅	186,435	1,025,000	18.2
28.青海	39,004	284,000	13.7
29.寧夏			
30.新疆	131,315	969,000	13.6
全国	16,213,000	74,400,000	21.8

注：10.江蘇省は1989年の数値。

第10表-1 商品種類別集市売上高の地域差(1988年) - その1

省・自治区	穀物・食用油類		肉・卵類		水産物		蔬菜類		果物類	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1.北京	7,003	5.0	18,276	12.9	8,132	5.8	39,857	28.2	26,992	19.1
2.天津	3,247	3.7	1,456	1.7	2,159	2.5	16,807	19.4		
3.河北	40,400	5.3	113,900	15.0	29,900	3.9	71,300	9.4	55,600	7.3
4.山西	37,692	14.7	51,427	20.0	3,213	1.3	45,289	17.6	41,001	16.0
5.内蒙古										
6.遼寧	35,594	5.7	128,988	20.5	44,658	7.1	126,067	20.0	69,787	11.1
7.吉林	17,195	5.3	65,833	20.2	19,382	6.0	47,402	14.6	34,136	10.5
8.黒竜江	15,910	4.2	64,139	16.7	21,211	5.5	41,214	10.8	36,710	9.6
9.上海										
10.江蘇	111,305	9.1	335,819	27.5	172,781	14.1	164,079	13.4	88,570	7.3
11.浙江	32,281	2.7	278,069	23.2	199,580	16.7	115,668	9.7	99,243	8.3
12.安徽	75,050	9.0	263,744	31.7	63,984	7.7	94,109	11.3	49,711	6.0
13.福建	53,319	9.6	135,118	24.4	78,447	14.2	62,894	11.3	29,543	5.3
14.江西										
15.山東										
16.河南	92,017	8.3	224,601	20.1	31,131	2.8	96,160	8.6	60,665	5.4
17.湖北	61,711	7.4	223,300	26.8	73,889	8.9	110,224	13.2	61,310	7.4
18.湖南	35,600	4.4	287,900	35.4	55,400	6.8	89,800	11.1	59,400	7.3
19.広東	76,382	4.7	705,003	43.3	188,775	11.6	110,868	6.8	132,209	8.2
20.広西	45,278	7.0	326,132	50.4	29,625	4.6	41,502	6.4	27,167	4.2
21.海南	4,868	3.9	56,940	45.8	13,141	10.6	10,241	8.2	5,870	4.7
22.四川	103,926	8.2	449,079	35.4	43,279	3.4	156,473	12.3	83,713	6.6
23.貴州										
24.雲南	45,805	12.0	134,423	35.2	9,552	2.5	60,211	15.8	19,684	5.1
25.西藏										
26.陝西	36,839	11.6	62,685	19.7	5,722	1.8	52,046	16.4	33,717	10.6
27.甘肅	12,886	6.0	37,405	17.5	4,080	1.9	38,392	18.0	24,556	11.5
28.青海	487	1.2	6,568	16.8	474	1.2	9,920	25.4	4,763	12.2
29.寧夏										
30.新疆	13,194	10.0	32,870	25.0	3,214	2.4	16,532	12.6	11,959	9.1
全国	142.7	8.8	460.0	28.4	123.0	7.6	193.0	11.9	122.9	7.6

注：①、10.江蘇省及び27.甘肅省は1989年の数値。

②、実数の単位は、省・自治区は万元、全国は億元。

第10表-2 商品種類別集市売上高の地域差 (1988年) - その2

省・ 自治区	農業生産資材		家畜		その他		合計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1.北京	211	0.1	1,766	1.2	39,086	27.7	141,320	100.0
2.天津							86,690	100.0
3.河北			26,000	3.4			758,200	100.0
4.山西	2,537	1.0	9,796	3.8	61,036	23.8	256,694	100.0
5.内モンゴ							113,000	100.0
6.遼寧	4,334	0.7	8,656	1.4	211,216	33.6	629,300	100.0
7.吉林	939	0.3	7,917	2.4	132,600	40.7	325,404	100.0
8.黒竜江	1,313	0.3	2,153	0.6	200,685	52.4	383,335	100.0
9.上海							160,925	100.0
10.江蘇	15,020	1.2	6,300	0.5	327,678	26.8	1,221,552	100.0
11.浙江	9,878	0.8	7,920	0.7	455,771	38.0	1,198,410	100.0
12.安徽	8,008	1.0	32,681	3.9	243,529	29.3	830,816	100.0
13.福建	7,596	1.4	2,959	0.5	184,440	33.3	554,316	100.0
14.江西							477,410	100.0
15.山東							1,131,838	100.0
16.河南							1,115,092	100.0
17.湖北	9,841	1.2	33,260	4.0	260,287	31.2	833,822	100.0
18.湖南	11,800	1.5	25,800	3.2	246,800	30.4	812,500	100.0
19.広東			27,178	1.7			1,629,909	100.0
20.広西	9,314	1.4	16,300	2.5	151,502	23.4	646,820	100.0
21.海南	2,347	1.9	2,426	1.9	28,580	23.0	124,413	100.0
22.四川	22,955	1.8	18,600	1.5	390,070	30.8	1,268,095	100.0
23.貴州							334,562	100.0
24.雲南			19,620	5.1			382,249	100.0
25.西藏								
26.陝西	4,125	1.3	9,602	3.0	113,578	35.7	318,314	100.0
27.甘肅	1,526	0.7	8,648	4.0	86,380	40.4	213,873	100.0
28.青海	1,235	3.2	601	1.5	14,956	38.3	39,004	100.0
29.寧夏								
30.新疆			9,846	7.5			131,315	100.0
全国	18.3	1.1	38.9	2.4	522.5	32.2	1,621.3	100.0

注：①、10.江蘇省及び27.甘肅省は1989年の数値。

②、実数の単位は、省・自治区は万元、全国は億元。

第11表 都市人口率と一人当り所得の地域差

省・自治区	都市人口率 %(1988)	一人当り所得 元(1989)
1.北京	59.46	3,321
2.天津	54.55	2,774
3.河北	13.80	1,081
4.山西	20.52	1,013
5.内蒙古	28.14	991
6.遼寧	42.20	1,977
7.吉林	37.11	1,273
8.黒竜江	38.66	1,476
9.上海	61.99	4,624
10.江蘇	17.52	1,630
11.浙江	15.26	1,667
12.安徽	13.12	917
13.福建	14.81	1,247
14.江西	15.26	842
15.山東	14.46	1,263
16.河南	10.82	819
17.湖北	20.64	1,164
18.湖南	13.21	906
19.広東	22.25	1,729
20.広西	10.89	726
21.海南	16.99	1,142
22.四川	12.23	813
23.貴州	9.50	631
24.雲南	10.18	774
25.西藏	8.95	785
26.陝西	16.83	859
27.甘肅	14.88	1,044
28.青海	23.82	1,044
29.寧夏	21.21	978
30.新疆	28.00	1,230
全国	18.48	

出典：都市人口率は、『中国城市建设年鉴』  
1988-89年版による。  
一人当り所得は、『中国統計年鉴』  
1991年版による。

蔬菜類の構成比は、北京(28.2%)、青海(25.4%)、遼寧(20.0%)、天津(19.4%)など、都市人口率の高い地域で高い。また、果実類の構成比も、北京(19.1%)、山西(16.0%)、青海(12.2%)など、どちらかと言うと都市人口率の高い地域で高い。これらの商品は、都市部の集市の代表的な商品であるからであろう。

これに対して、農業生産資材の構成比は、北京(0.1%)、吉林(0.3%)、黒竜江(0.7%)など、都市人口率の高い地域で低く、海南(1.9%)、四川(1.8%)など、都市人口率の低い地域で高い。言うまでもなく、この商品は専ら農村部の集市で取引されるからである。

家畜の構成比は、江蘇(0.5%)、福建(0.5%)、黒竜江(0.6%)、浙江(0.7%)など、経済発展の進んだ地域で低く、新疆(7.5%)、雲南(5.1%)、湖北(4.0%)、甘肅(4.0%)など、どちらかと言うと、経済発展の遅れた地域で高い。これは、前章で見たように、集市総売上高に占める家畜売上高の割合が継年的に低下しつつあることから考えると、前者の地域では、家畜の売買が、既に集市以外のルートによるようになったためではないかと思われる。

以上のように各表から推測される諸関係を確認するために、都市人口率及び一人当り所得と上記の諸変数との相関係数を求めたのが第12表である。

第12表 都市人口率及び一人当り所得と諸変数との間の相関係数

	都市人口率	一人当り所得
都市立地集市数の構成比	.7972**	.4980**
農村立地集市数の構成比	-.7901**	-.5076**
都市立地集市売上高の構成比	.7465**	.5521**
農村立地集市売上高の構成比	-.7465**	-.5521**
1 集市当り売上高	.2812	.5089**
1 都市立地集市当り売上高	-.1329	.2589
1 農村立地集市当り売上高	.2190	.3539
小売販売額に対する集市売上高の割合	-.8191**	-.6322**
穀物・食用油類売上高の構成比	-.3458	-.3811*
肉・卵類売上高の構成比	-.5842**	-.4848*
水産物売上高の構成比	-.1178	.2041
蔬菜類売上高の構成比	.6147**	.5154**
果物類売上高の構成比	.7241**	.6175**
農業生産資材売上高の構成比	-.5294*	-.5207*
家畜売上高の構成比	-.2298	-.4090*
その他売上高の構成比	.2686	.0231

注：\*\*は1%レベルで有意。

\*は5%レベルで有意。

これによれば、①都市部立地の集市の割合は都市人口率及び一人当り所得と有意な正の相関を示し、逆に農村部立地の集市の割合は負の相関を示す。②総売上高中都市部立地集市の売上高の割合は、都市人口率及び一人当り所得と有意な正の相関を示し、逆に農村部立地集市のそれは負の相関を示す。③1集市当りの売上高は、一人当り所得と有意な正の相関を示す。④小売総販売額に対する集市売上高の割合は、都市人口率及び一人当り所得と有意な負の相関を示す。⑤集市売上高中穀物・食用油類の構成比は、一人当り所得と有意な負の相関を示す。⑥同じく肉・卵類の構成比は、都市人口率及び一人当り所得と有意な負の相関を示す。⑦水産物の構成比は、都市人口率及び一人当り所得のいずれとも有意な相関を示さない。⑧蔬菜類及び⑨果物類の構成比は、両者と有意な正の相関を示す。⑩農業生産資材の構成比は、両者と有意な負の相関を示す。⑪家畜の構成比は一人当り所得と有意な負の相関を示している。

以上により、各表から推測された諸関係は、相関係数によりほぼ裏付けられたと言えよう。

#### 4. おわりに

以上、中国の自由市場に関する1980~90年の統計数値の分析により、いくつかの興味深い事実が明らかになった。

第2章の継年的変化に関する分析からは、とりわけ、①集市数および集市売上高は共に増加傾向にあり、自由市場は依然として拡大過程にあること、②小売販売総額に対する集市総売上

高の割合は上昇傾向を続けており、自由市場は小売業全体の中でも相対的地位を高めつつあること、③商品別の売上高構成比の変化より、自由市場が生鮮食料品市場としての性格を年々強めつつあることなど、中国経済の中での、自由市場の意義づけに関わる重要な事実が明らかにされた。

また、第3章の地域差に関する分析からは、自由市場が、都市化地域と農村的地域、先進地域と後進地域、沿海部と内陸部、北部（東北・西北）と南部（華中・華南）などの地理的条件の違いに対応しながら、さまざまな地域的差異を示しつつ存在していることが明らかになった。なかでも、都市化の程度と経済発展の程度とが、自由市場の地域差を最もよく説明する要因であると思われる。

**謝辞** 本稿における統計数値の整理及び相関係数の算出には、名古屋大学大学院博士後期課程の金料哲氏の援助を得た。記して感謝の意を表したい。なお、本稿の分析・整理には平成5年度及び平成6年度科学研究費（研究代表者 石原 潤、課題番号 04680241 及び 06680140）を使用した。

#### 注

- 1) 石原 潤, 中国の自由市場について, 名古屋大学文学部研究論集, 110, 1991年
- 2) 石原 潤, 『中国集市大観』に見る中国の自由市場, 名古屋大学文学部研究論集, 119, 1994年
- 3) Skinner, G. W., Marketing and Social Structure in Rural China, (Part 1,2,3), *The Journal of Asian Studies*, Vol.24, 1964/65
- 4) 社会商品零售額